

皆様、はじめまして。こんにちは。福島県立橘高等学校の猪股雄仁と申します。よろしくお願いいいたします。

10分という短い時間ですので、早速話の方を進めさせていただきたいと思いません。今回ですが、「学生開発者を取り巻く環境と本来の在るべき姿 [高校生の視点から-] という題目のもとでお話しさせていただきます。

さて、今や数多くのソフトウェアが市場に流通しておりますが、それらのほとんどについては「大人」が開発を手がけたものであります。市場に流通させるには、企業内での企画・立案等から始まって製品化というものがほとんどでしょうから、「大人」が手がけるということはもちろんのことです。

では、近年増加しつつある学生のプログラマに対する社会の反応はどうでしょうか？おそらく、「まだ学生だから」や「考えがイマイチ・・・(欠ける)」という否定的な立場が一般的かと思えます。ですが、その一方で、「若い力も必要ですね」や「これからを担いますから」等の賛同的な立場をとる方もいらっしゃいます。

なぜ否定的な立場が一般的に多いのでしょうか？これは大人からみた学生の姿にあると思えます。学生と言え、本職は勉強です。多くの場面で試験が課せられ、開発をする時間があるならば勉強をしなければいけない。さらに、まだ一般の社会に出ているとも限りませんし、なんと言っても、学費は保護者の方が負担しているでしょうから、保護者の監視下のもとにあります。こういった現状から否定的な立場を取る人が多いのでしょうか。確かにそれは間違っていることではありません。事実そのものです。ですが、ここで考えてみてください。学生だからこそできることは何か？・・・これは賛同的な立場の方の意見になりますが、「発想が柔軟で、知識の組み合わせができ、これからの時代にマッチする部分が多い」ということがあげられます。これはこれで一理あるでしょう。寧ろ私はこれこそこれからの開発者の社会環境であるべきものだと思います。

私事になりますが、私自身、まだプログラミングは2年程しかやっておりませんし、スキルもまだまだです。ですが、スキルをのばすために、様々なイベント・セミナー等に参加してきました。昨年11月に行われた、MOSA Software Meetingにも初めての高校生参加者として参加しました。そうして分かったことですが、多くの人と情報を交換するというのは素晴らしいものです。様々な経験をすることができました。MOSA Software Meetingのより詳しいことにつ

いては、私のレポートが MOSA のウェブページに載っておりますので、どうぞご覧ください。独自での開発もいいのですが、年齢を超えて、多くの開発者の意見を聞き、学生同士というのも含めて、お互いが刺激し合ってさらによりよいものを作る、ということもまた大切ではないかと思えます。私と同じ高校生で、他に何人かはソフトウェア開発に興味のある人は知っていますが、まだまだそれは氷山の一角にすぎないと思っております。昨年には、「Mac OS X 10.5 Leopard」、「Windows Vista」という二大 OS が発売され、ソフトウェア開発に興味が出てきたという学生は少なからずいるはずでしょう。今まで経験してきたことから申し上げますと、ソフトウェア開発に年齢の壁はありません。学生だからといって小さくならず、視野を広げて自分を一人の開発者として置くことが大切なのではないでしょうか。

長くなりましたが、私が今日皆様にお伝えしたかったことは、「これからは学生も参画できるような社会環境にしていかなければならない」ということと、「学生はどんどん積極的に自分を見せて、自分のためにも他の人との話をしなければならぬ」ということの2つです。他の人と話をするというのは、「情報を共有する」ということになります。多くの企業は、ソフトウェアのベータプログラムテスターにせよ、フィードバックの送信にせよ、それを大人に任せられています。学生もパソコン1台は持つような社会です。大人だけでよりよいものにするということも大切ですが、それはまだまだ昔からの開発方法を現在も続けているというだけです。この社会変化に沿っていないと思っております。言うなれば、大人が作るというものは先入観です。それは取り払い、なくしていただきたいと思えます。ユーザーは大人だけではありません。学生のユーザーも相当なものと思えます。従いまして、学生開発者を含めた多くの開発者の手によって1つのプログラム、ソフトウェアを作っていただきたいと思っております。学生開発者に多くの機会を作っていただきたいということです。そして、学生開発者においても、受け身で参加するのではなく、自ら積極的に参加していく必要があります。何事も、やらされているといった「受け身」の意識でやることと、自分から進んで「積極的」な意識でやることでは大きな違いがあります。つまり、積極的に参加していくことに意義があるのです。

これからの開発者における社会環境に、新しい風が吹き、より一層ソフトウェア開発が活発になり、ますます盛り上がっていくことを期待しまして、本日のプレゼンテーションを終えたいと思えます。

ありがとうございました。